

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年5月18日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 2092600036
法人名	有限会社幸楽
事業所名	グループホーム 幸楽
所在地	長野県木曾郡木曾町日義4905 (電話) 0264-23-1001
評価機関名	福祉総合評価機構 長野県事務所
所在地	長野県飯田市上郷別府3307-5
訪問調査日	平成21年4月8日

【情報提供票より】(21年2月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20年 4月 6 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 16 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 16.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	39,000 円	
敷 金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(2 月 9 日現在)

利用者人数	17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	9 名	要介護4			
要介護5		要支援2			
年齢	平均 84 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木曾日義診療所、ゆうあい歯科医院、木曾病院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このグループホームは、標高約千メートルにあるリゾート地・木曾駒高原の只中にあり、東の駒ヶ岳の懐に抱かれ、西に御岳を望む素晴らしい環境に囲まれている。反面、冬は厳しい寒さ、積雪のために外出ができず、施設内で体操やゲームなどをして暮らし方を工夫している。このような地域で、平成20年4月に1F、11月に2Fと2ユニット開設したばかりであるが、地域との連携については運営推進会議などを始め、積極的な取り組みが見られる。また、初めての外部評価に対しても真摯な取り組みをしていて、好感をもつことができる。サービス向上に向け、課題はいろいろ出てきているが、全職員の前向きな姿勢で乗り切ることができるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	施設開設後初めての外部評価である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	開設してから短期間であるが、これまでの取り組みを自己評価票や他の資料に丁寧にまとめてきた。また、全職員に認知症への理解、自己評価や外部評価の意義を周知し、さらに、評価の結果を活かして改善に努めようとしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議のメンバーには、町の関係担当者等や地域の方々ばかりでなく、消防署・主治医等の関係者、家族代表・利用者代表も参加し、開かれた会議となっている。2か月に1回開き、新設のグループホームとしての課題を話し合い、サービス向上に役立っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	毎月1回、個々の家族には利用者それぞれの生活の様子などを報告したり、「幸楽ホーム便り」で、グループホームの行事や利用者の様子などを知らせたりしている。運営推進会議には家族代表が参加しているが、まだ家族会がつけられていない。利用者の家族同士が気兼ねなく話し合う場を設けていくことが望まれる。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	隣組に加入し、通夜などに参加したり、お願いをしたりして交流している。また、地域の方を招いて映画会を開き、利用者と一緒に地域にとけこむように努めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人の尊厳を尊重し、個々に適した自立支援を目指します。相手の立場に立ち、思いやりの心で満足されるサービスを提供します。専門職集団として、常に資質向上と自己研鑽に励みます。」という理念を掲げ、木曽地域の利用者の要望を基に平成20年4月に1ユニット、11月にさらに1ユニットと立ち上げ、理念実現を目指している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議などで、全職員が利用者の「自立支援」をそれぞれどのように目指すか話合っている。例えば、利用者に自分の家として自分ができること、やってみたいことなどで、血洗いや掃除・洗たくなど体を十分動かすような仕事ができるように支援してきている。		つくりあげてきた理念を、利用者や家族、地域の方にも知ってもらい、さらに広報することが望まれる。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組に加入し、通夜などに参加したり、お願いをしたりして交流している。また、地域の方を招いて映画会を開き、利用者と一緒に地域にとけこむように努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設してから短期間であるが、これまでの取り組みを自己評価票や他の資料に丁寧にまとめてきた。また、全職員に認知症への理解、自己評価や外部評価の意義を周知し、さらに、評価の結果を活かして改善に努めようとしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには、町の関係担当者等や地域の方々ばかりでなく、消防署・主治医等の関係者、家族代表・利用者代表も参加し、開かれた会議となっている。2か月に1回開き、新設のグループホームとしての課題を話し合い、サービス向上に役立っている。		

グループホーム 幸楽

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外に包括支援センター等の担当者が頻繁に訪問してくれたり、グループホームから担当者にも参加したりして相互の連携を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、個々の家族には利用者それぞれの生活の様子などを報告したり、「幸楽ホーム便り」で、グループホームの行事や利用者の様子などを知らせたりしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へ電話したり、訪問した際には気楽になんでも伺うことができるようにしたりして、意見、不満、苦情に対応できるようにしている。		運営推進会議には家族代表が参加しているが、まだ家族会がつかられていない。利用者の家族同士が気兼ねなく話し合う場を設けていくことが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新設間もないことや、2ユニット目が後にできてきたことなどで、職員の異動があったが、「幸楽ホーム便り」で職員の紹介をしたり、運営者が管理者を兼務するなどして、利用者へのダメージを防ぐよう努めてきている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新任研修で、個別介護や排泄介護などの研修を行った。今後は外部研修の情報などを積極的に活用し、研修を勧めていく予定である。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新設間もなく、同業者との交流がない。		木曾・上伊那地区のグループホーム連絡会で相互評価研修会を開いているので、連絡を取り、参加を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を始める前には、相談を通して情報を得たり、本人・家族の訪問・見学を通して馴染めるようにしたりして、納得して入居できるように心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者も家族の一員として、本人でできること、本人がこれまで培ってきたことを仕事や趣味に活かすようにしている。例えば、歌が好きで、「木曾節」を唄いたいといってきたときには歌詞を書いてみんなで唄ったり、かつて営林署に勤めていた頃の昔話にみんなで耳を傾けたりして楽しんでいる。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人や家族から聞き取ったり、ふだんの生活で気づいたりしたことなどを個人の記録「ケア日誌」に書きとめ、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	例えば、利用者本人の「ここでの生活は楽しい、出来ることがあれば手伝いたい」という思いや、家族の「生活に慣れ、みんなと仲良く暮らして欲しい」という願いを基に、「役割を持って楽しく生活できるように支援します」という目標を立て、具体的な介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には、1か月おきにモニタリングし、3か月ごとに介護計画を見直している。そして、なにか変化が生じたときには、そのつど見直すようにし、対応できるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者やその家族、そのときの状況に応じて、通院や送迎などの必要な支援には柔軟に対応できるようにしている。また、医療連携体制を活かしたサービスを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの木曾日義診療所と協定して、毎月2回往診してもらい、適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化が進んでいる利用者には家族と話し合い、終末期のあり方について話し合っている。		グループホームとしてどのような対応ができるかをマニュアルにまとめ、いつでも対応できるようにすることが望ましい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレや入浴などで、プライバシーを損ねるような声かけや対応をしないよう心がけたり、職員同士での会話にも配慮したりしている。また、広報紙「幸楽ホーム便り」に掲載する写真なども、同意を得るようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にして、本人の希望や意向を聞いて、場所を変えたり、休息したりできるようにしている。また、夜などには、個人に合うような過ごし方を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者にもその人に応じ、食事の準備や後片付けなどをしてもらって、職員と一緒に食べるようにしている。また、食後にはそのときの話題で盛り上がり、楽しく過ごすことができるようにしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回、可能なときは午前中でも入浴できる。また、職員が見守り、介助しながら、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の中でできる人には、掃除や配膳、花の手入れなどをやってもらったりして力を発揮できるようにしている。また、冬は外に出れないので、みんなで昔の歌を歌ったり、作品作りをしたりして楽しんでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩、自動車でのドライブ・買い物などができるように心がけている。標高が高い所にあり、雪の積もる時期には外出できないので、室内でゲームなどをして、体を動かし気晴らしができるように工夫している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	木曽地域で利用者の徘徊での事故があったため、事故防止の面から、内ドアには鍵をかけている。		鍵をどのようなときに、どのようにかけるか、グループホームの管理者・職員からの視点からのみ対応するのではなく、利用者・家族等の意向を十分とり入れ、鍵をかけないケアを進めることを願いたい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設時の20年4月から3回の消防訓練を行い、21年2月の訓練では、利用者を含めた避難訓練を実施した。隣組にも声をかけたり、消防署・消防団の参加を得たりして、地域の協力を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりに合わせて、量を加減したり、刻み食にしたりしている。また、1F・2Fユニットごとに献立を工夫して、栄養摂取や栄養バランスが適切に確保できるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2階建ての旅館であった建物を改築して、2Fユニット目が開設して間もないことから、2Fはまだ未完成なところが見られる。共用の空間は、利用者の手作りの作品等があり、明るく過ごせるようになっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの居室は、家族と相談して過ごしやすい部屋作りをしている。それぞれの使い慣れたものや好みのものが整理しておかれている。		